

『リリー インスリン 50 年賞』 受賞式に参加して

「リリー インスリン 50 年賞」とは

米国では約 40 年もの歴史を誇る賞です。50 年以上インスリン治療を続けてこられた糖尿病患者の方々を表彰するものです。わが国でも 2003 年より、「リリー インスリン 50 年賞」の表彰が始まりました。第 15 回となる今回の受賞者は 15 名、このたび当院の患者さん 渡部藤枝さんが、めでたくこの賞を受賞されました。当院では「第 1 号受賞者」です。

本来であれば主治医の宮岡院長との受賞予定でしたが、院長の代理で患者さんに同伴しました。

【受賞式】

2017 年 11 月 7 日（火）

場所：東京 ホテルオークラ東京

受賞者：第 15 回受賞式 15 名の方が受賞
(会場での受賞は 11 名)

受賞者に贈られたもの：

- ・表彰状
- ・名前を刻印した純銀製のメダル
- ・世界糖尿病デーのシンボルカラーに染められた「青いバラ」
- ・主治医のメッセージが贈られました。



【表彰式では】



長い時間（50 年以上）の中でのエピソードが紹介されました。受賞者の皆さんは、家族（両親・兄弟・子供）友人、そして新しい出会い（パートナー）、治療を受け継いできた歴代の主治医にも支えられたと感謝の言葉を述べられました。50 年という長い時間の中では、本当に数々のドラマがありました。本人・家族はもちろん、他の受賞者も涙ぐんでいました。おそらく自分の姿が重なって見えたのでしょうか…

50 年…大変な道のりだったでしょう…

渡部さんにも人生のドラマがありました。

糖尿病を発症した時は多感な 18 歳。

発病と同時にインスリン治療が開始になりました。

インスリンも今のように使い捨てではありません。

毎日お母さんが、お鍋でガラスの注射器、針を煮沸消毒し、インスリン注射を打ってくれたそうです。

つらい時期もありましたが、お母さんの強い愛情と、今は優しい息子さんとその家族（お嫁さん、二人の



お孫さん)に囲まれて、幸せに暮らしていらっしやいます。

受賞式にも息子さんのお嫁さんが同伴してくださいました。

「リリー インスリン 50 年賞」は多くの糖尿病患者さんに、大きな励みと生きる勇気・希望を与えてくれる賞だと思いました。



- ・この賞を受賞された患者さんのこと
- ・「リリー インスリン 50 年賞」のことを今後も伝えていきたいと思ひます。

【患者さんにお伝えしたいこと】

- ・「インスリンだけは嫌！」
- ・「インスリンをするようになったら、もうおしまい」
- ・「インスリンは最後の手段だから！！」

ではなく…

渡部藤枝さんの受賞は、

インスリンは最後の治療ではない！「**必要な時期に早く**」インスリン治療を行なえば、50年、いや、もっともっとお元気で生活できることの**何よりの証明**になりました。

インスリン治療に迷っている患者さん、勇気を出してみましよう！インスリン治療に迷っている人を見かけたら、渡部藤枝さんのことを思い出して、そっと背中を押してあげましよう！当院での第2・第3の「インスリン 50 年賞」が続くよう祈りたいです。



写真は、青いバラの花をつけている前列の方が受賞者、赤いバラの花をつけている後列の方が主治医です。

渡部藤枝さん、ますますお元気で…

これからも、一緒に頑張っていきましょう

